

【解説文】

県の災害時の対応力向上を図り、県民の防災意識の高揚を図ることを目的に、8月31日（月）に「令和8年度岐阜県総合防災訓練」を実施します。

近年、全国各地で地震や豪雨、台風による自然災害が頻発しており、その被害も激甚化する傾向にあります。先月28日には、熊本で最大震度7を観測する地震が発生し、今もなお、多くの方々が不安な時間を過ごされています。災害の発生を目の当たりにするたびに、災害対応における初動の重要性、そして、関係機関が緊密に連携して対応することの重要性を改めて強く感じたところです。

こうした災害から、県民の皆様の生命と財産を守るためには、「事前の一策は事後の百策に勝る」と言われるように、平時からあらゆる事態を想定して、関係機関が連携し、実践的な訓練を重ねておくことが極めて重要です。訓練を通じて課題を把握し、対応力を高めていくことが、防災力の向上につながるものと考えています。

今年度は、県内で最大震度7を観測する内陸直下型地震を想定し、さらに、地震発生後に大雨による被害が発生する複合災害という、実際に起こり得る厳しい状況を設定し、現実にした実践的な訓練を実施します。

そして、特に今回は、従来の図上訓練に加え、実際に人員や資機材を動かす「実動訓練」を実施します。災害発生直後の避難所運営、物資輸送を実際に行うことで、関係機関の連携などを実践的に検証し、災害対応能力の向上を図ります。

加えて、令和8年熊本地震でも、被災自治体単独での災害対応が不可能であることが明らかになっていることから、応援自治体が被災自治体を支援するという連携訓練を実施します。

同じ県内であっても、比較的被害の少ない、距離が離れた市町村が即応して応援にあたることを想定し、川辺町から距離のある高山市、飛騨市が参加して、応援する際の支援体制の構築や、その重要性を検証します。

大規模災害時には、迅速な情報共有と、それぞれの機関が役割を十分に果たすための的確な連携が不可欠です。

今回の訓練を通じて、県の防災体制の実効性をしっかりと検証するとともに、今後の防災対策のさらなる充実につなげ、県民の皆様の安全・安心を守る体制を、より一層強固なものとしてまいります。